



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 84 号

-
- | | |
|---|----------------------------------|
| ・発行日 / 2011 年 8 月 5 日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317 |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994 | ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

「悔い改めなさい」

(使徒言行録 2 章 37 節 ~ 42 節)

理事長 木ノ内一雄

今年のペンテコステ(聖霊降臨日)は6月12日でした。ちなみにキリスト教の三大祝日はクリスマス(降誕日)、イースター(復活日)、ペンテコステです。ユダヤ教の三大祭りは過越祭、五旬祭、仮庵祭です。主イエスは過越祭に十字架につけられ、三日目に甦られました。そして40日にわたってご自身を使徒たちに示され、復活の確かなこと、そして聖書 旧約 はご自身について書かれていることを説き明かされました。その後、弟子たちの見ている前で天に上げられました。それから一週間後の五旬祭の日、使徒たちは主イエスとの約束を守り、エルサレムから離れず、ある家の二階に集まり、鍵をかけて閉じこもり祈っていました。彼らは主イエスを十字架につけたユダヤ人たちを恐れていました。そこに大きな音がして、主イエスが約束されていた聖霊が降りました。聖霊に満たされた使徒たちは他の国々の言葉で話し出したのです。その出来事に驚いた人々が集まってくると、ペトロは他の11人と共に立ち上がりました。

ペトロは預言者ヨエルの言葉を引用して話し始めました。旧約聖書では神のことをヤハウェと呼びますが、ユダヤ人たちはその言葉を口にすることはなく、代わって「主」(アドナイ)と呼びました。ペトロは引用したこの個所を用いて、主イエスこそ「主」であって旧約の神と同じお方であると語りました。次に、ダビデの言葉を引用し、ダビデも預言者であるが故にメシアを知っていたが、そのお方こそ主イエスであると証しました。そして、ペトロは説教の最後に、あなたがたはこの主イエスを十字架につけて殺したが、神はこの主イエスを死から復活させたと言いました。聞いていた人々は心を動かされました。なぜなら、ペトロを通して聖霊が語られていたからです。聖霊が人々の上に働き、自分たちが罪ありとして十字架につけた主イエスを、神は罪なしとされたのを知ったからです。神は罪のないお方を死に閉じ込めておくことはおできになりません。神の子を十字架につけたところに彼らの罪があったのです。聖霊が彼らの固い石のような心を砕きました。人々は「わたしたちはどうしたらよいのですか」と使徒たちに尋ねました。

「悔い改めなさい」、それが使徒たちの答えでした。主イエスを神として「主」として認めることです。それまでは自分の判断で事の善悪を決めていました。しかし、その結果、神を十字架につけることになりました。自分を捨て主イエスに従うことが求められています。その決心の証しとして洗礼を受けることが必要です。そうすれば賜物として聖霊を受けると使徒たちは言うのです。

旧約聖書では聖霊は、王、祭司、預言者だけが受けました。しかし、もはやそのような区別はありません。主イエスのところに来る人すべてが受けることができます。わたしたちは悔い改め、聖霊を受けることによってのみ神の国に入ることができると聖書は教えます。

東日本大震災被災地を訪ねて

理事長 木ノ内 一雄



仙台市の海岸近く

3月11日午後2時46分、マグニチュード9の巨大地震が東日本を襲いました。それにより大津波が起こり、また、福島第一原子力発電所では放射能漏れの惨事が起こりました。これらの災害により死者数1万5千人、行方不明者数5千人を越えました。そしていまだに多くの人々が不自由な避難所での生活を続けておられます。また、福島原子力発電所から半径20キロ圏内は避難指示区域となっています。

地震や津波は自然災害と言えますが、福島原子力発電所の放射能漏れ事故は自然災害ではなく人災と言えるでしょう。そのため日本での原子力発電の是非については議論が起こり、その存続について意見が大きく二つに分かれています。そのいずれかを選ぶことにより、これからのわたしたち日本の在り方を大きく変えることになるのです。

震災後、パートナーズ インターナショナル米国 (PI USA) からボブ・サーベッジ氏が21日(月)に来日されました。サーベッジ氏はPI USAで25年間の経験があり、ハイチ、インドネシア、インド、スリランカ等の地震、津波の被災地にも行かれた緊急援助の専門家です。今回の災害は海外でも大きく報道されており、PI USAでも日本での被災状況を把握し、支援者に正確に報告する必要があります。22日(火)はクラッシュ・ジャパン(クリスチャン災害援助ネットワーク)と日本キリスト教団世界宣教部を訪問し、23日(水)から25日(金)にかけて仙台、石巻の被災地、及びその地区の教会をわたしと一緒に見て回りました。



東北教区災害者支援センター

東北教区災害者支援センターに到着し、そこで被災教会について簡単な説明を受けた後、日本キリスト教団宮城野愛泉教会と同教団、仙台東教会を訪問しました。両教会とも、被災後、近隣住民の緊急避難先となっていました。

宮城野愛泉教会の牧師は国津信一先生と夫人の里咲先生でした。このような状況の中、両牧師にはいろいろとお世話になりました。当初、支援センターで宿泊する予定でしたが、結局、この教会で二泊することになりました。築二年、とてもきれいな教会で、地震にも耐え、特に目に見える損害はありませんでした。地震の後、夜、教会の前でたき火をしていると近所の人たちが集まって来て暖を取ったそうです。近隣でこの教会だけ水道が出たため、集まった人たちは自分の家から寝具を持って来て、しばらく礼拝堂に泊ったそうです。その数は40~50名だったそうですが、その内の



石巻市 日和山公園から



東北教区災害者支援センター

鈴木淳一牧師、夫人の鈴木ペー善姫牧師、また信徒の方々が教会員と家族、近隣の方々のための食料や日用品を配布するために尽力されていました。教会には震災直後からクラッシュ・ジャパンのボランティアの方々が数名、泊まり込みで働いていました。夜は礼拝堂で宿泊し、昼間は信徒宅を回って家や道路のヘド口などを片づけていました。彼らの機動力と実行力には驚かされました。そのうちの何人かと話しましたが一人はタイで奉仕しているアメリカ人宣教師、もう一人は日系アメリカ人の学生でした。タイとアメリカから駆けつけたそうです。

その後、石巻栄光教会も訪問、小鮎實牧師にお会いしました。教会も同じ敷地にある幼稚園も床下浸水だったそうです。



石巻山城町教会

それに基づき、日本のための資金援助活動が行われています。

クリスチャンパートナーズでは、サーベッジ氏を PI USA の窓口にも、米国から寄せられた援助金に、当会会員や他の P I からの援助金を加えて、下記の団体に送ることにいたしました。

- | 日本キリスト教団
- | クラッシュ・ジャパン
- | 「声なき者の友」の輪
- | アジア学院。

アジア学院には、サーベッジ氏は訪問しませんでした。竹澤三佳子理事と私が 6 月 2 日（木）に訪問し、丹羽理事長から現状および今後について詳しくお話を伺うことが出来ました（4 ページをご参照ください）。

災害支援金関係報告（発行日現在）

支援団体：

日本国内より	約 22 万円
PI 東南アジアより	約 21 万円
PI USA より	約 400 万円
合計	約 443 万円

送金先：

日本基督教団	100 万円
「声なき者の友」の輪	100 万円
アジア学院	100 万円
クラッシュ・ジャパン	100 万円
東北ヘルプ	43 万円

災害を受けたアジア学院訪問

理事 竹澤三佳子

去る6月2日、木ノ内理事長と竹澤は、西那須野にあるアジア学院を訪問しました。

アジア学院は、1973年創立、キリスト教精神のもと国籍を超えて、アジア、アフリカ、太平洋諸国の農村指導者を、留学生として9ヶ月間の農村指導者養成の研修を行っています。今回の訪問の目的は、東日本大震災後、パートナーズ インターナショナル米国 (PI USA) からの援助金の一部をアジア学院に贈ることを検討し、現状と今後の見通しを丹羽章理事長から直接お聞きすることにありました。

アジア学院はコイノニアハウス(食堂・礼拝室など)と本館の建て替えと他の施設の応急補修工事が必要とされていました。また、福島原子力発電所から約100キロ離れていますが、農場の葉物野菜への影響がないように神経を使われていました。現在、農村伝道神学校(町田市)の敷地の一部を借りて、授業を行っています。7月迄に施設の応急補修工事を完了し、8月から那須の校舎に戻り研修を続ける予定になっているとのことでした。



施設内を案内していただいた時に、アモス・バンマリグ師から紹介されて来日した研修生にお会いしました。バンマリグ師はアジア学院を終了後、ガーナで自立のためのプロジェクトの指導者として活躍しておられます。理事長は今年の9月にアフリカを訪問する予定ですが、バンマリグ師のプロジェクトの見学がこの旅行の目的の一つとなっています。この青年もまた、帰国後の農業指導者として活躍するのを夢見て、ここでの充実した生活に満足しているようでした。この青年の明るい表情がとても印象的でした。

アジア学院訪問 後列 カティング先生 丹羽章理事長
前列 竹澤理事 木ノ内理事長

【理事会報告】第168回理事会は2011年5月8日(月)一ツ橋学士会館で開催。2011年3・4月度会計報告承認。東日本大震災の被害視察に来日した米国PIのサーベッジ氏と理事長の被災地訪問報告。支援金送金関係の打ち合わせ。当会会員からの支援金額20万円余。理事長のアフリカ視察旅行は9月の予定。高橋めぐみ宣教師との懇談は、次回理事会後に予定。「通信」第84号は6月末、第85号は年度末会計報告を加え、8月末発行予定。

第169回理事会は2011年7月25日一ツ橋学士会館で開催。2011年5・6月会計報告および2010年度決算報告承認。東日本大震災支援金の送金一応終了。理事長のアフリカ視察とロンドンでのCEO会議出席は9月12~30日。2011年度予算は、奨学金を減額、理事長の旅行費用を加味し、SAC里子数45名として承認。現在里子は47名。「通信」第84号は原案に支援金関係記事を追加、8月5日発行。第85号は決算報告・予算案に理事長の視察旅行報告を載せ、11月初めに発行予定。

第170回理事会は2011年10月31日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

理事会終了後、高橋めぐみ宣教師からカリマンタンでの活動報告を伺い、夕食を共にして歓談のひと時を過ごした。

<編集後記> 今まで私たちは、インドネシアやアフリカでの自然災害に、同労団体からの要請に応じて予算の緊急援助項目から送金してきましたが、今回初めて、日本の災害に同労団体から強い関心と多額の支援金が寄せられました。また、会員の皆様はじめ多くの方々からのご支援に感謝いたします。猛暑が続くようです
か ら

くれぐれもお大事に。

理事長の視察旅行が無事に、実り多いものになりますよう祈ります。次号での報告にご期待ください。
鳥海百合子